

セクシュアル・マイノリティ支援 これまで、そしてこれから



LGBT支援法律家ネットワークは、セクシュアル・マイノリティの問題に取り組む弁護士・行政書士・司法書士・税理士・社会保険労務士などの法律家のネットワークで、2007年に立ち上がりました。セクシュアル・マイノリティの相談に、偏見を持たず、正確な理解のもと、当事者の苦しさや悩みに寄り添える法律家を当事者らが探すのには、困難が伴います。そうした「法的アクセス障害」を解消していきたいという思いで、ネットワークはゆるやかにつながりを広げていきました。

メンバーは、セクシュアル・マイノリティ当事者もいれば、非当事者もいます。有志で弁護団を組んだり、イベントを開くなどしていき、現在、北海道から熊本県まで、100人以上のメンバーがいます。

今年で、ネットワークの立ち上げから10年になる事を記念して、皆さんとともに、これまでの活動を振り返り、これからの取り組みを考えたいと思います。

日時

2017年 12月9日(土)

14時～17時(13時半開場)

会場

明治大学駿河台校舎 研究棟 2階 第9会議室 (地図裏面)

●開会挨拶：鈴木 賢(明治大学法学部教授)

1. 基調講演 角田 由紀子(弁護士) 『性の法律学』の40年
2. 特別報告 中村 貴寿(司法書士) 「バックラッシュのゆくえ」
3. パネル・ディスカッション

「セクシュアルマイノリティ支援—これまで、そしてこれから」

角田 由紀子(弁護士)、上川 あや(世田谷区会議員)、
山下 敏雅(弁護士)、森 あい(弁護士)

コーディネーター：前園 進也(弁護士)

●閉会挨拶：中川 重徳(弁護士)、●総合司会：大畑 泰次郎(弁護士)

基調講演： 角田由紀子（つのだ ゆきこ）氏

東京大学文学部卒業、1975年弁護士登録、「東京強姦センター」のアドバイザー、「池袋売春男性死亡事件」の弁護人を務めるなど、性暴力被害者の権利擁護に取り組む。日本初のセクシュアル・ハラスメント裁判とされる福岡事件など多数のセクシュアル・ハラスメント裁判に携わる。

1991年刊行の『性の法律学』（有斐閣選書）で、同性愛者差別について触れている。2004年～2013年明治大学法務職研究科教授
LGBT支援法律家ネットワークには、当初（2007年）から参加。

「…日本での現在の関心の高まりが、一時的な熱狂ではなく、少数者の人権問題としてしっかりと根づくことを願っています。そして、他のマイノリティの人権問題への気づきに広がり、「普通」にこだわらない柔軟な考えが広く受け入れられる社会になることを願っています。」
（LGBT支援法律家ネットワーク出版プロジェクト編著『セクシュアル・マイノリティQ&A』（弘文堂）所収のコラムから）



申込み方法（先着100名）

※参加費：500円

★当ネットワークのホームページの予約フォームからお申し込み下さい。

<http://lgbt.sakura.ne.jp/lgbt/20171002-2/>

（当日参加も可能ですが、席に限りがあるため、受付は事前申込みされた方を優先させていただきます。）